

スライド 1

社会医療法人社団沼南会沼隈病院リハビリテーション課の喜多村です。
よろしくお願いいたします。

スライド 2

私たちは近年、当院での日々の臨床業務でリハビリ対象となる患者層の変化を感じていました。
そこで今回、平成 26 年から 28 年の 3 年間の患者データを集計し比較検討しました。
これを現況での取り組みとともに、若干の知見を加え報告します。

スライド 3

当院は人口 1 万 2 千人弱、高齢化率 30%の広島県福山市沼隈町にあります。
ケアミックス型法人で、リハビリ専門職は医療・介護分野に分かれ運営しています。
リハビリテーションスタッフは全体で 59 名おり、病院リハビリテーション部には 25 名が在籍しています。

その中で病院リハビリテーション部の対象は、後期高齢者群が中心であり、元々要介護者で、
肺炎・脳血管障害、大腿骨頸部骨折の OPE 後などでした。

しかし 3 年前に整形 Dr の増員で、人工関節置換術や腱板縫合術など多様な整形疾患の OPE
が開始され、リハビリ対象となる患者層の変化を感じていました。この患者層変化から、病院リハビリ
テーション部はなにを課題として取り組むべきかデータを集計して考察しました。

スライド 4

集計・比較項目です。
期間・対象は、平成 26 年4月から平成 28 年 3 月までの入院リハビリ対象となった患者層です。
比較項目は、患者総数、年齢層、介護度、疾患別リハビリ総数、運動器疾患詳細、手術件数の6
つです。

スライド 5

3 年間の入院リハビリ対象患者総数と年齢変化です。
円グラフ中央にリハビリ対象となった入院患者総数を記載し、円グラフは、青色の 69 歳以下を最
小として、それ以上の年齢層を 10 歳刻みで集計したものをパーセンテージで示しています。

年度リハビリ対象患者総数は年々**100** 人前後、増加しています。

前期高齢者群となる**69** 歳以下の患者層が、過去**3** 年間で**7** ポイント増加していますが、**80** 歳以上の後期高齢者群が占める割合に大きな変化はありませんでした。

スライド 6

介護度の変化です。

棒グラフは水色が平成**26** 年、紫が平成**27** 年、赤が平成**28** 年です。

介護認定無や要支援者が増加しています。

スライド 7

次に**3** 年間の入院疾患別リハビリ患者数の変化です。

運動器疾患が増加し、脳血管障害が減少しています。

スライド 8

次に運動器疾患詳細です。

慢性疾患が減少し、下肢骨折・上下肢の軟部組織疾患が増加しています。

スライド 9

3 年間の総手術件数推移です。

平成**26** 年、整形外科の手術件数**70** 件弱でしたが、平成**28** 年は**398** 件と約**5** 倍になっています。

スライド 10

結果です。

入院リハビリ対象患者は年々増加傾向です。リハビリ対象層の平均年齢は低下し、介護保険無・要支援者が増加しています。しかし**75** 歳以上の後期高齢者群の占める割合に大きな変化はなかったです。

入院リハビリ対象群は、手術件数増加に比例して、人工関節置換術・上肢骨折、軟部組織損傷などの運動器疾患が増加しています。

スライド 11

考察です。

人工関節、軟部組織損傷後のリハビリテーションの先行研究は前期高齢者群を対象とした報告が中心です。しかし、今後は、後期高齢者群への人工関節・軟部組織損傷の包括的なリハビリ提供体制構築が急務と考えています。

スライド 12

現在までの取り組みは、

週 1 回の病院長・整形 Dr・多職種でのリハビリカンファレンスとともに、

整形 Dr・リハビリスタッフ共同での勉強会を開催しています。

また、人工関節疾患へ当院独自のクリティカルパスを作成し運用しています。

スライド 13

今後についてです。

後期高齢者群への包括的なリハビリテーションは、担当セラピストが、患者の生活歴、入院前生活状況を詳細に把握し ICF 的思考での介入が必要になります。

年齢、介護認定の有無に関わらず、退院前訪問の介入を早期から行い、在宅復帰が目指せるように取り組んでいきたいと思っています。

また病院リハビリから介護・在宅領域のリハビリへのつながりが重要であり、

老健・通所・訪問リハビリスタッフとの情報共有・合同の勉強会を積極的に実施していきたいと思っています。

今後、より在宅生活へつながったパスへバージョンアップし、包括的リハビリテーションが、私達の地域で提供できるように取り組んでいきたいと考えています。

スライド 14

ご清聴ありがとうございました。

地域支援のために必要な当院 リハビリテーション部の課題について

喜多村 浩樹

社会医療法人社団沼南会 沼隈病院 リハビリテーション課

研究の目的

- 1.入院リハビリ対象層の変化を実感
- 2.入院リハビリ対象層集計・比較
- 3.現況での取り組み
- 4.今後について

リハビリテーション部

病床	一般病床	44床
	地域包括ケア病床	16床
	療養病床	58床
	合計	118床
リハビリ施設基準	脳血管Ⅰ 運動器Ⅰ 呼吸器Ⅰ	
リハビリ スタッフ数	グループ総数 59名	
	(PT32名/OT13名/ST8名/DH4/助手2)	
	病院 24名	
リハビリ対象疾患	(PT10名/OT6名/ST5名/DH2名/助手1名)	
	・整形疾患 ・脳血管亜急性期 ・肺炎等	



集計・比較項目

- ・対象：入院リハビリテーション対象患者
- ・期間：平成26年～平成28年（3年間）
- ・集計、比較項目
 - ・年齢層
 - ・介護度
 - ・疾患別リハ総数
 - ・運動器疾患詳細
 - ・手術件数

H26~28年の入院患者総数と年齢変化



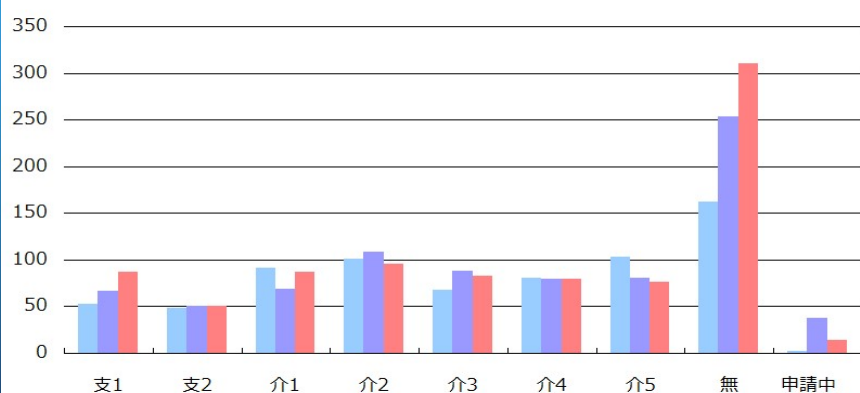
H26~28年の入院患者介護度

H26

H27

H28

(単位：人)



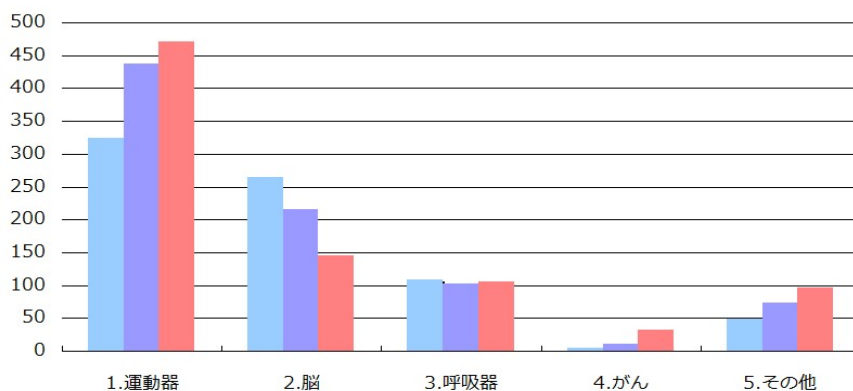
H26~28年の入院患者 対象疾患

H26

H27

H28

(単位：人)



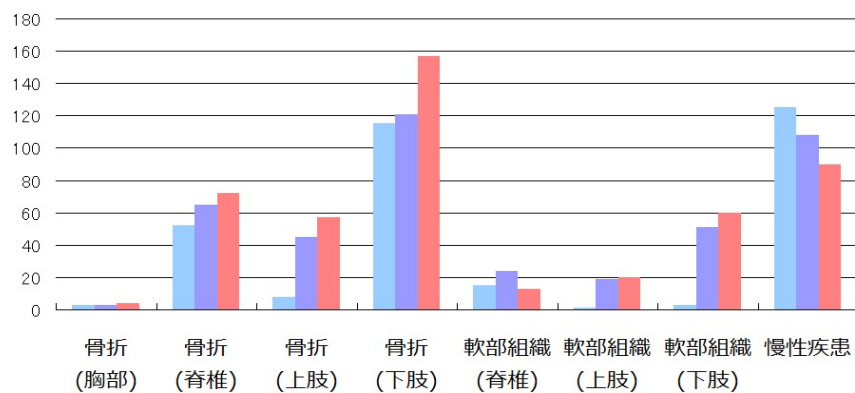
H26~28年の入院患者 運動器疾患詳細

H26

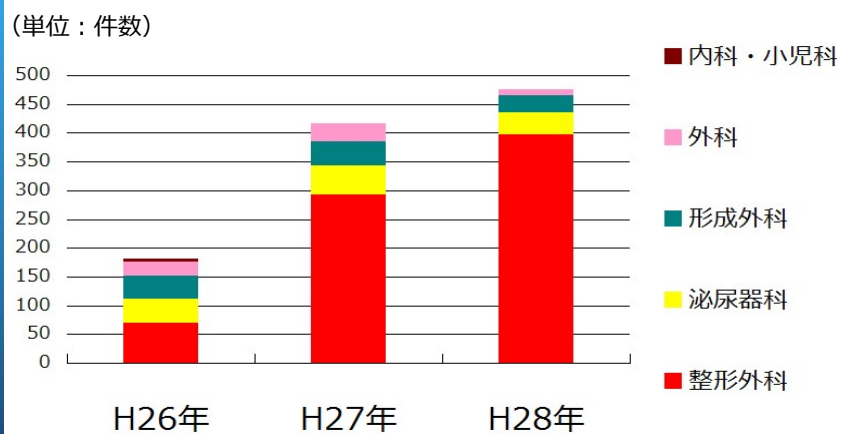
H27

H28

(単位：人)



H26~28年の入院患者 手術件数



結果

- リハビリ対象の患者総数：増加傾向
- 年齢層：平均年齢約3歳の若返り
- 介護度：介護保険無・支援1の増加
- 疾患別リハ総数：運動器疾患の上昇
- 運動器疾患詳細：人工関節や骨折の急性期の増加
- 手術件数：整形外科手術件数が5倍

考察

- 人工関節、軟部組織損傷後のリハビリテーションの先行研究・論文は、前期高齢者群対象や回復期リハ病棟での報告が多数ある。
- しかし、当法人の病床形態、且つ後期高齢者群を対象とした包括的リハビリテーションアプローチ方法の報告は少ない。



後期高齢者群への人工関節、軟部組織への観血的療法後の在宅生活までつなげる包括的リハビリ提供体制の必要性

現在までの取り組み

- 整形Dr・リハビリスタッフ合同勉強会実施
- 整形Dr回診参加
- 必要性に応じた個別カンファレンス開催
- 人工関節、鏡視下腱縫合術後へのパス作成
- リハビリスタッフ部内勉強会実施
- 外部研修会への積極的参加



今後について

- 生活暦、入院前生活状況を詳細に把握
 - ★入院早期からの積極的な退院前訪問
- ↓
- ICF思考による入院早期からのアプローチ
 - ★身体・生活をつなげる思考
- ↓
- 在宅リハビリ（入所・通所・訪問リハビリ等）
へつながるアプローチ

ご清聴ありがとうございました

